

テーマ「職員が積極的に関わりを持つ学修支援の在り方について」

1. テーマ設定について

(1) 大学の役割

「社会人基礎力」という言葉に表れるように、社会に貢献する人材の育成が大学に求められていることに鑑み、「社会に貢献できる人材（目標設定や課題解決力を備えた人材）を輩出すること」を大学の役割と捉えた。

(2) 役割を果たすために大学がすべきこと～大学を取り巻く環境への対応～

高校卒業生の過半数が大学に進学する「ユニバーサル化」により学生の多様化が進んでいる。こうした環境の下、上記の役割を果たすための取り組みが急務となっている。

(3) 大学の現状

学生の多様化により、①学生の学習意欲が低下していること、②学生生活と大学での学びに価値を見出せない学生が増えている現状がある。これに対応するには、①学生の学習意欲を向上させる仕組み（適切に授業を評価し、改善結果を授業やカリキュラムに反映させる仕組み）、②全学的な離籍者対策が必要である。しかし現状として大学の対応は十分でなく、結果として大学の輩出する学生の質が保証されているとは言い難い。

(4) テーマの設定理由

上記を踏まえ、①大学のキャンパスライフをトータルにサポートすること、②学生からの評価を教員に対して適切にフィードバックし授業を改善することが重要だと考えた。中でも職員が貢献できるのは、「教員と連携しながら広範な視野で学生の学修支援に積極的な役割を果たす」ことだと考え、テーマを「職員が積極的に関わりを持つ学修支援の在り方について」と設定した。

2. 問題点の深堀り

学生の多様化への大学の対応の問題点として、以下の2点に着目した。

- ①学びの動機付けが出来ておらず、学生サポートが活性化していないこと
- ②授業に対するPDCAサイクルのうち、C（Check）が有効に機能していないこと

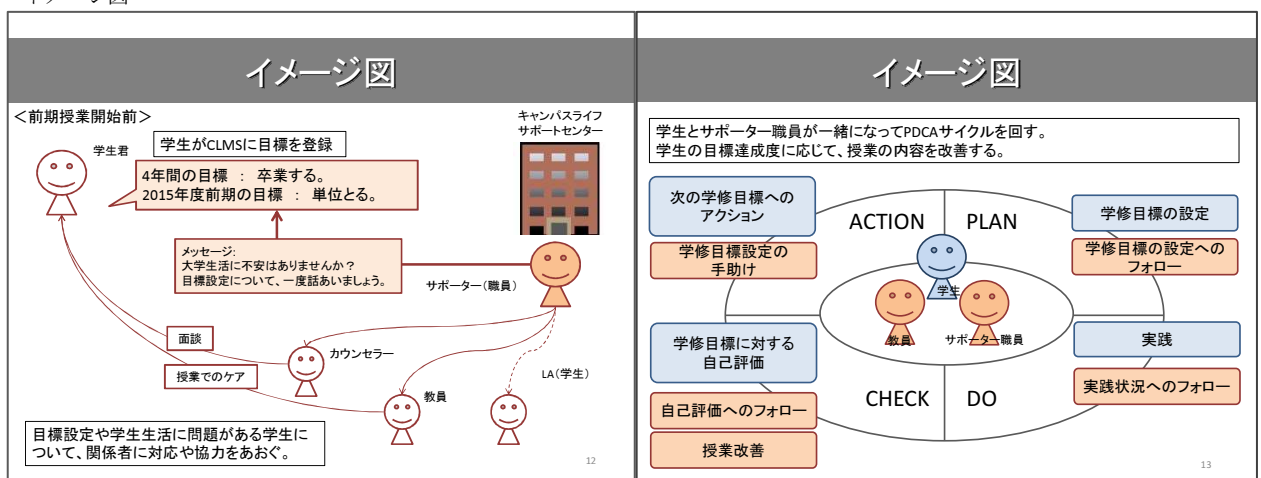
3. 解決策の検討

上記の問題点から「学生自身が学びの目標を設定し、達成度を確認できる仕組み」に着目して解決策を検討した。

4. 大学のイノベーションの提案～具体的解決策～

具体的な解決策として、「目標管理システム（CLMS：Campus Life Management System）」と、「キャンパスライフサポート制度」を提案する。前者は、大学における活動（授業、部活、サークル、ボランティア等）に対して学生に目標とその目標に対しての自己評価、コメント等を入力させ、教職員が担当する学生に対して入力された内容にフィードバックを行うシステムである。後者は、自己管理が難しい学生に対して、教員・職員・カウンセラーが適切なサポートを行う。また、学生によるラーニングアシスタントを導入し、学生同士のつながりを強化する制度である。

イメージ図



5. イノベーション実現の道筋、成果と課題

上記の提案の実現にあたっては、システムの導入や、教職員への研修実施、ラーニングアシスタントへの教育、学生の居場所作りなどが必要になる。こうしたアプローチの実現には職員の力が欠かせない。さらに、この提案では職員が学生へのトータルな支援の窓口となるため、その果たすべき役割は大きい。

ただし、実現にあたっての課題として、授業評価などアクセスの制限規定をどうするか、全学生にフィードバックする人的余裕はあるのかという課題が残る。後者に対しては、取りまとめとしてキャンパスライフサポートセンターといった組織を置き、サポーターの業務量の調節や、サポーターと教員、カウンセラー、ラーニングアシスタント間の連絡を円滑に行う支援をする必要がある。

こうした課題を克服しイノベーションが実現することで、離籍者数が低減するとともに、学生が高いモチベーションと目的意識を持って授業に臨み、部活やサークル、ボランティアなど生き生きとした学生生活を送ることができると期待する。

以上